



セコム株式会社
株主通信

12月
2010年

第50期中間報告書

2010年4月1日から
2010年9月30日まで

全社員で目標を正しく共有 新商品投入で 組織を活性化

「2011年3月期第2四半期決算」(2010年4月1日～9月30日)の
連結経営成績について、
社長の前田修司からご説明させていただきます。
併せて、次の見開きで、
セコムグループの事業の概要をご紹介します。

セコム株式会社 代表取締役社長

前田 修司



第2四半期の決算についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、緊急経済対策などにより景気の持ち直しの動きも見られましたが、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価変動など、景気を下押しするリスクが強まっています。

このような状況の中で、「安全・安心」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しており、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築をめざし、セキュリティサービス事業を中心に質の高いサービス・商品を開発・提供することに努めました。

当第2四半期累計期間における売上高は3,154億円(前年同期比0.9%増加)となり、営業利益は479億円(前年同期比2.1%減少)、経常利益は513億円(前年同期比6.3%増加)、四半期純利益は287億円(前年同期比9.8%増加)となりました。

中核であるセキュリティサービス事業についてお聞かせください。

セキュリティサービス事業は連結売上高の65%を占めていますが、その中でもホームセキュリティなどのセキュリティシステムのご契約先である国内約130万1千件のお客様に、これまで以上にご満足していただくことが重要です。

先に述べたように「安全・安心」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しています。そこで私は「既存のお客様を実際に訪問し、ご意見やご要望を伺い、お客様のご期待に応えねばならない」と社員に話をしてきました。

その際には実際に各地に出向き、社員と目標を共有化し、社員一人ひとりが十分に理解し、「仕事を正しく行う」ことの重要性を説き、組織としての活性化を図ってきました。

その成果として、セキュリティサービス事業の半期比較で

4期ぶりに前年同期比売上をプラスに転じることができました。

今年に入って新商品を次々と発売されてきましたが、新商品が業績アップの引き金になりましたか。

社員を元気にするには新商品をタイムリーに出していくことが一番です。今年4月、東京・原宿の本社で「セコム・テクニカルフェア」を開催しましたが、これはお客様にセコムの技術力を見ていただけただけでなく、新商品を次々と出す姿勢を表明することで、社員の士気を高めることができました。その効果が上半期の数字となって現れたと考えていますし、下半期にはさらに効果が出ると思っています。

セキュリティの契約件数も伸びていますね。

市場環境が厳しいと言いますが、わが国では全国の事業所の総数は約600万事業所あると言われているので、私たちの前にはいまだ開拓されていない膨大なマーケットがあります。

また、セキュリティシステムは、たとえば今年6月に発売した、事業所のエネルギー使用状況の計測・集計システム「セコム・エコデータシステム」と接続すれば、お客様の電気代などのエネルギーコストを削減など、お客様の経営の効率化、ひいては地球環境保全につながります。今の時代に合った効率化や地球環境保全を切り口に提案していけば需要をさらに掘り起こせるものと考えています。

家庭向けオンライン・セキュリティシステムは、高齢化社会の進展で関心が高まる生活支援サービス「セコム・ホームサービス」の提供や、「セコム・ホームセキュリティ」のテレビCMの効果もあり、契約件数を伸ばすことができました。

2 011年3月の期末に向けての見通しをお聞かせください。

セキュリティサービス事業については、今後も新商品を投入するとともに、新規のお客様だけでなく、すでにサービスをご利用いただいているお客様に対しても最新のセキュリティの提案を行っていきたいと考えています。

防災事業は、トンネル防災をはじめとする、能美防災(株)の得意分野をさらに伸ばすとともに、2011年5月末が設置義務期限の住宅用火災警報器の需要も見込めると思います。

メディカルサービス事業は、引き続き在宅医療サービスと医療機器の販売を伸ばしながら、提携医療機関の全国ネットワーク化を進めていきます。

保険事業は、好調なガン保険「自由診療保険メディコム」をはじめ、事業所向けの「火災保険セキュリティ割引」や家庭総合保険「セコム安心マイホーム保険」の加入者増に努めるのはもちろん、従来から扱っている保険商品を強化していく予定です。

地理情報サービス事業は、国内での事業拡大はもとより、海外での国土地図作成や空間情報活用のニーズに応えることで、さらなる業容拡大をめざします。

不動産開発・販売事業は、前期に引き続き将来を見越した在庫の圧縮に努めていきます。

情報通信・その他の事業は、情報セキュリティと危機管理サービスを柱に契約件数の拡大を図っていきます。

最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

当期末における配当予想を前期の85~90円(実績85円)から90円といたしました。これは絶対に達成するという強い意思を表したものです。今後も、セコムの成長を加速させていただきますので、セコムの将来に期待してください。

社会を「安全・安心」にするセコムグループのサービス・システム

セキュリティサービス事業

セコム(株)を中心に、オンライン・セキュリティシステム、常駐警備、現金護送、大型セキュリティシステム、安全商品を提供しています。

中でも、ご契約先に設置したセンサーとセコムのコントロールセンターを通信回線で結び、異常が発生すると緊急対応員が急行、必要に応じて110番・119番通報するオンライン・セキュリティシステムは、一般家庭から、店舗、オフィスビル、銀行、学校、工場、大規模施設など、社会に広く普及しています。

セコムは独自の研究開発部門を持つという強みを活かし、これまでに培ってきた技術を駆使したシステムやサービスを創出し続けています。今年9月には日本初の強盗自動検出システム「インテリジェント非常通報システム」を開発・販

売、同じく9月にはレーザーで“面”を監視する屋外侵入監視センサー「レーザーセン

サー」を開発・販売しました。セコムはこれから日々変化する社会動向や犯罪動向を先読みしたシステムを開発し、社会に「安全・安心」を提供していきます。

防災事業

防災業界トップの能美防災(株)が、トンネル、プラント、工場、船舶、文化財、ビル、地下街、住宅などに、自動火災報知設備や消火設備などの防災システムを提供し、社会の安全化に大きく貢献しています。



また、中国

でのセキュリティサービスを管理統括する西科姆中国有限公司と能美防災との合併で、上海能美西科姆消防設備有限公司を設立し、各種防災・防犯機器を製造しています。

メディカルサービス事業

セコム医療システム(株)を中核に、医療、介護・福祉、健康・予防、医療ネットワークなどの分野で、高品質なサービスを提供。

＜医療分野＞では訪問看護サービス、薬剤提供サービス、クリニック開業・運営支援サービスなどを提供。現在、17の提携病院のほか、クリニックとともに、地域に根ざした医療サービスの提供をめざしています。＜介護・福祉分野＞では訪問介護サービス、通所介護サービス(デイサービス)などを提供。また、

シニアレジデンス「コンフォートガーデンあざみ野」「コンフォートヒルズ六甲」

「サクラピア成城」「ロイヤルライフ多摩」や、介護付有料老人ホーム「アライブケアホーム」の運営にも携わっています。＜健康・予防分野＞では会員制健康管理サービス「セコム健康くらぶ KENKO」や健康食品などを提供。ほかに介護予防スクリーニング「健康寿命100」も提供しています。

＜医療ネットワーク分野＞では、遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や「セコム・ユビキタス電子カルテ」などを提供しています。セコムグループは、トータルなメディカルサービスの提供に努めています。



保険事業

セコム損害保険(株)が、セコムグループのシナジを最大限に活かし、充実した補償内容とホームセキュリティ割引などの各

種割引制度が魅力の家庭総合保険「セコム安心マイホーム保険」、交通事故の時にセコムの緊急対応員

が現場急行を行う自動車保険「セコム安心マイカー保険」、ガン治療にかかった費用を補償するガン保険「自由診療保険メディコム」など、独創的な保険商品を提供しています。

これからもお客様から信頼され、選ばれる損害保険会社でありつづけるため、全社一丸となって事業発展に努めていきます。

地理情報サービス事業

地理空間情報事業のトップ企業の(株)パスコは、人工衛星や航空機を使って国内外の地理空間情報を収集し、お客様の使用目的に合わせ、加工・処理し、さらに必要な情報を付

加した地理空間情報サービスを提供しています。

国内では地方自治体の業務を支援するサービスを提供、社会インフラの維持管理や長寿命化に向けた提案

を行っています。また、企業向けには、経営戦略立案や業務の効率化を支援する地理空間情報サービスなどを提供しています。海外では、欧州、ブラジル、中国、タイなどに拠点を置き、国の発展の源となる国土基本図作成のほか、世界的な防災や環境のモニタリングサービスなどを提供し、グローバルに展開しています。

不動産開発・販売事業

セコムホームライフ(株)が、「安全・安心で高品質なマンション」をコンセプトに、セコムの先進セキュリティシステムと、災害時に備えた防災倉庫などの防災機能を持つ「GLORIO マンション」シリーズを、首都圏を中心に提供しています。

また、セコムグループの総合力を活かして、ご入居後の暮らしの相談にお応えする「グローバルサポート24」を提供。

ご入居の皆様から、「セコムならではの安心で快適なマンション」との評価を得ています。

情報通信・その他の事業

セコムトラストシステムズ(株)が、セコムグループ向けの「安全・安心」を24時間365日提供する情報システムの構築・運

用で培った高い技術力とサービス力を活かし、便利・快適・効率化につながる情報社会に不可欠な情報・ネットワークサービスを事業継続(BCP)の視点で展開しています。

セコムのセキュリティノウハウを結集したデータセンターをベースに「安全で強固なサービス基盤」と「24時間365日の有人対応」による、社会的に注目を集めるクラウドサービスに該当するセコムならではの“機能レンタルサービス”を提供します。

約240万人が利用する国内最大規模の「セコム安否確認サービス」をはじめ、文書の電子化により業務効率の大幅な向上とコスト削減を実現する「セコムあんしんエコ文書サービス」、事故など緊急を要する経営上の重要事案の発生時に専門スタッフが窓口対応し、経営幹部や関係部署への緊急連絡を代行する「初動オペレーションサービス」など、初動支援から災害復旧まで、事業継続を支える一貫したサービスを提供。さらにサービス提供の新たな拠点として、最新技術の粋を集めた「セキュアデータセンター」新館を8月にオープンしました。お客様の声を反映したセコムらしいサービスの創造と革新を続けています。



最先端の画像・音声処理技術と商品開発ノウハウで 世界にも例のない先進システムを次々と創造する

● IS 研究所の役割は何ですか。

IS 研究所の IS とは「インテリジェントシステム」の略で、セコムは高度なシステムを使って「安全・安心」なサービスを提供していますが、その中核となるシステムの研究開発に取り組んでいます。

私たちの役割は、革新的で「安全・安心」なサービスの創出をめざし、社会動向の変化を先読みして、将来、必要となる先端技術やサービスを先取りして研究することです。

● 9月に発売された日本初の強盗自動検出システム「インテリジェント非常通報システム」には、最新の研究成果が活かされていますね。

IS 研究所では、画像処理技術や音声処理技術の研究を20年以上前から行ってきました。そして、オンライン画像監視システム「セコム AX」や顔検知機能付きインターホン「セキュリティフェースインターホン」、電動式人工喉頭「マイボイス」などを世に出してきました。「インテリジェント非常通報システム」は、それらの研究開発で培った技術やノウハウに最新の画像・音声処理技術を融合したもので、人物を追跡したり人物の姿勢を推定したりする画像処理技術や人物を特定する顔認識技術が使われています。

● 研究の蓄積に加えて運用経験の積み重ねも研究のベースになっていますね。

セコムは24時間365日オンラインで継続したサービスをお客様

第2回

セコムの研究開発

R&D

セコムIS研究所

セコムIS研究所 先端研究ディビジョン
マネージャー 池野修一



Shuichi Ikeno

セコムが常に日本のセキュリティ業界をリードし続けてきた理由は、独自の研究開発体制で、新しいシステムを世に送り出してきたことにあります。

このコーナーでは、研究開発部門をシリーズで紹介していきます。

に提供しているため、お客様から技術に関わるご要望があった場合は、研究所にも連絡が入り、必要に応じて直ちに

対策を講じる体制をとっています。この運用体制はセコムの大きな強みとなっています。

● 研究領域は情報系や医療・福祉の分野にも広がっていますね。

社会に「安全・安心」を提供するためには、セキュリティはもちろんのこと、情報系や医療・福祉も重要な研究分野であり、電子データを長期間、安全に保管する技術や病院の経営や医療の質を評価する技術なども研究しています。これからも画像処理技術、情報セキュリティ技術、ネットワーク技術などを組み合わせ、革新的なシステムの研究開発をめざしていきます。

お客様が電話をされてきた理由と状況を察し、 心配りしながら適切かつスピーディに対応

● どのような方からお問合せが寄せられるのですか。

大別すると、当社のセキュリティシステムを利用されているお客様と、当社のホームページや広告をご覧になって導入を検討されているお客様です。1日平均4,000～5,000件のお問い合わせをいただいています。特に多いのは、オンライン・セキュリティシステムを利用されている法人のお客様で、次いでホームセキュリティのお客様、安全商品のお客様の順になります。

第2回

セコムフィールド
Field

お客様
サービスセンター

セコムのセキュリティシステムは、安全のプロによるサービスがその質を決めます。異常発生時の監視を行うコントロールセンターとともに、お客様からの電話でのご要請にお応えするお客様サービスセンターを紹介します。

ろん、研修や勉強会で常に知識の習得に努めているほか、独自のマニュアルを作成して、どんな質問にも即答できるようにしています。

気をつけていることは、お客様がどうい

● どのような内容のお問合せが多いですか。

法人のお客様の場合は、機器の操作方法や、システムの運用方法など、大半がセキュリティに関するものです。ホームセキュリティのお客様の場合は、一番多いのは出張やご旅行などで、家を留守にするという「不在連絡」です。また、現在セキュリティシステムの導入をご検討されているお客様からの問合せや、保険サービスやメディカルサービスに関する問合せをいただくこともあります。必要に応じて適宜、グループ会社や担当部署とリレーションをとり対応しています。

お客様サービスセンター長 渡邊俊和

Toshikazu Watanabe

状況にいらっしゃるのかをイメージして対応することです。中には1分1秒を争うご連絡をいただくこともあるので、状況を確認しながら、迅速・適切に回答するようにしています。また、緊急事態に備えてスーパーバイザーを3名、また外国人のお客様にも対応できるように英語が堪能な社員2名を常時配置するなど、万全の体制を敷いています。

● センターの体制と心がけていることについて教えてください。

24時間365日体制で、約100名の社員がローテーションで対応しています。セキュリティシステムに関する問合せが多いので、緊急対応員や事業所勤務など、フィールドでの経験が3年以上の社員を配置しています。もち

● 名称どおり、日夜、お客様にサービスを提供している最前線の部門ですね。

全員が、セコムのコントロールセンターの管制員と同じく、24時間365日、お客様の「安全・安心」は我々が守っているという自負を持って業務に取り組んでいます。

日本初の強盗自動検出システム 「インテリジェント非常通報システム」を販売開始

凶悪化する強盗に対抗するわが国初の強盗自動検出システム「インテリジェント非常通報システム」を開発、9月21日から販売を開始しました。

近年、店舗やオフィスを狙った強盗事件は、刃物や銃器、刀剣類を使うなど凶悪化しています。また、従業員が少なくなる閉店間際や深夜を狙った犯行、そして女性スタッフが多数いる店舗を狙った事件も発生しています。

これまでのセキュリティシステムでは、異常に気づいた店員や職員が、非常ボタンを押すことで、異常をセコムに通報していました。

このたび開発した「インテリジェント非常通報システム」は、セコムの画像処理技術や音声処理技術など、セコムの技術力を結集し、非常ボタンが押せない状況でも異常を自動検知し、セコムに通報することを可能にしたシステムです。

金庫などの重要物の周辺にカメラとマイクを設置するだけで、①覆面などで顔を隠した人物の接近、②金庫など、一般的に複数人の人間が接近することが不自然な状況、③悲鳴を自動で検知します。

これらの異常を早期発見・通報することで、より迅速な緊急対処を可能にしたこのシステムは、ワンランク上のセキュリティシステムとして、お客様に「安全・安心」を提供していきます。



日本初の強盗自動検出システム
「インテリジェント非常通報システム」

敷地への侵入を“面”で監視 「レーザーセンサー」を販売開始

事務所・店舗・工場・学校・駐車場などへの侵入を監視する、屋外侵入監視センサー「レーザーセンサー」を開発、9月22日から販売を開始しました。

これまで、屋外で侵入者を監視するためには、赤外線を投受光する機器を1組設置し、その間をさえぎる侵入者を検知する方法が一般的でした。

しかし、この方法では、外周全域を監視するために何組もの機器の設置が必要である上に、植栽や障害物がある場所では設置が難しい場合がありました。

「レーザーセンサー」は、レーザービームを使い、このレーザーを最大30メートル、180度の扇状に張り巡らすことで、1台で広範囲を監視することができます。また、監視範囲を自由に設定することができるため、障害物を避けて必要な場所だけを監視することができます。さらに、警戒前に予定した監視エリア内に駐車された車両や搬入された資材などがあった場合には、障害物の大きさや滞留時間などを測定し、侵入物体でないと分析した場合には、監視範囲を変更する「自己学習機能」も搭載しています。

高精度でより柔軟な対応を可能にした「レーザーセンサー」は新しい形のセキュリティシステムとして高い実用性を発揮していくことが期待されます。



屋外侵入監視センサー「レーザーセンサー」

羽田空港国際線ターミナルがオープン セコムの常駐警備が守る

テレビや新聞のニュースでも話題の羽田空港の新国際線ターミナルビルと4本目のD滑走路が10月21日にオープンしました。

セコムは、新国際線ターミナルビルの整備・運営を行う東京国際空港ターミナル(株)様に、新国際線旅客ターミナルの常駐警備(セコムジャスティック(株))と従業員向けの空港保安検査、空港ご利用者の万が一に備え「セコムAEDパッケージサービス」52台を導入いただきました。

新たにオープンした羽田空港国際線ターミナルは、都心からのアクセスも世界トップクラス。電車や車で空港に到着してから出発まで、少ない階層移動で旅客機への搭乗が可能です。

また、日本の文化を世界へアピールする商業施設の「江戸小路」や「TOKYO POP TOWN」では、日本の古き良き文化と現代の文化を体感することができます。

今後は、単なるエアターミナルではなく、商業施設、国際交流の場としても利用が期待される羽田空港。こういった複合施設のセキュリティを提供するには、人による高度な対応力、判断力が必要になります。

セコムでは、約30年にわたり、成田空港の安全を守ってきた実績があります。そのノウハウを活かし、新しい「日本の玄関」を常駐警備のプロフェッショナルが万全に守っていきます。



羽田空港新国際線ターミナルビル

重要事案の発生対応から社内連絡まで 企業の危機管理をトータルにサポート

企業にとって、事故などの重要事案が発生した場合、初動対応が不可欠です。

しかし、初動対応に不可欠な緊急連絡体制を24時間365日維持することは容易ではありません。

そこで、セコムトラストシステムズ(株)は、セコムが培った重要事案対応のノウハウを活かした「初動オペレーションサービス」と、「セコム緊急連絡網サービス」の提供を開始しました。「初動オペレーションサービス」は、事故や災害、個人情報流出などの重要事案が発生した際、セコムトラストシステムズ

の専門スタッフがお客様に代わり、24時間

365日、電話および電子メールで受け付けます。そして、お客様の経営幹部や責任者に速やかに連絡することで、お客様の早期の組織的な対応をサポートします。

また、「セコム緊急連絡網サービス」は、急な予定変更やアクシデントなど日々発生するさまざまな連絡事項を、パソコンや携帯電話から電子メールで一斉に連絡。応答結果をリアルタイムに自動集計することがで

きるため、緊急時の対応をより速やかに行うことができます。さらに、この2つのサービスを組み合わせることで、重要事案の発生受け付けから社内連絡まで、セコムならではのトータルな危機管理サービスを提供していきます。



重要事案や緊急連絡にすみやかに対応

セキュリティ完備の介護付有料老人ホーム「アライブ世田谷中町」がオープン

10月1日、東京・世田谷区に最先端のセキュリティを完備した介護付有料老人ホーム「アライブ世田谷中町」がオープンしました。「アライブ世田谷中町」は、セコムのグループ会社である(株)アライブメディケアが、東京と神奈川を中心に運営するもので、8施設目となります。



最先端セキュリティを完備した「アライブ世田谷中町」

現在、高齢者が安心して生活できる高いレベルの防犯・防火体制を備えた施設の需要が高まりをみせています。

このような声に応えるため「アライブ世田谷中町」は、セコムならではの最高クラスのセキュリティを実現。入退室管理を行う「セコムアクティブICタグシステム」、異常を画像で見守る「セコムIX」、災害時にスタッフの安否を迅速に把握し、早期対応を行う「セコム安否確認サービス」を導入しました。

また、ご家族がいつでもご入居者のカルテを確認できる「セコム・ユビキタス電子カルテ」も導入しています。さらに、太陽光発電、LED照明を導入するなど、地球環境保全にも配慮しました。

セキュリティ・医療連携・環境配慮の最先端をゆく「アライブ世田谷中町」は、高齢化社会をリードする介護付有料老人ホームとして、ご利用者に快適な生活を提供していきます。

「没後120年 ゴッホ展」が好評開催 セコムが安全管理をサポート

10月1日、東京・港区の国立新美術館で、「没後120年 ゴッホ展

～こうして私はゴッホになった～」がスタートしました。この展示会は、12月20日まで開催される東京を皮切りに、その後、福岡、名古屋でも開催され、セコムがそのすべてに協賛しています。今回の展示会では「こうして私はゴッホになった」というサブタイトルから読み取れるように、ゴッホの芸術性が確立してゆくプロセスを作品を通し、解き明かします。

セコムは、今回展示する貴重な作品群の日本到着から出発までの全移動での伴走業務を担当し、安全管理をサポートします。



《灰色のフェルト帽の自画像》
1887年油彩/綿布
44x37.2mm/ファン・ゴッホ美術館
フィンセント・ファン・ゴッホ財団

映画「SPACE BATTLESHIP ヤマト」 セコムがコラボレーションを実施

セコムのCMキャラクターでもある木村拓哉さんが主演を務める映画「SPACE BATTLESHIP ヤマト」とセコムがコラボレーションを行いました。

「ヤマトは地球を守る。セコムは地球の家族を守る。」とのコピーを反映した広告を作成し、12月からの映画上映に合わせ、日本経済新聞に掲載したほか、同様のメッセージを加えたコ



上映に合わせて掲載した日経新聞広告(15段)

ラボレーションCMも制作。テレビの提供番組での放送に加え、12月16日～31日の間は、東京メトロの主要路線の車内テレビでも同CMを放映する予定です。

地域に合わせたセキュリティサービスを展開 シンガポールでも普及が進むセコムのセキュリティ

赤道直下の国シンガポール共和国。人口約500万人、南北23km東西42kmと、東京23区ほどの大きさの島です。

セコムがシンガポールに進出したのは1992年。セコムと現政府系投資会社であるテマセックホールディングの傘下企業、シンガポール警察共済会との合併で設立されました。

日本企業や外資系企業が多く進出するシンガポールで、セコムシンガポール(株)は、その傘下にあるグループ会社、ディガード(D'Garde)(株)とプロビジョン(Provision)(株)とともに、日本と同様の企業向けオンライン・セキュリティシステムをはじめ、常駐警備サービス、火災を早期に感知する超高感度センサーによる防災ソリューションを提供



セコムシンガポールのコントロールセンター(左)
現地のニーズに合わせたセキュリティを提供(右)



しています。

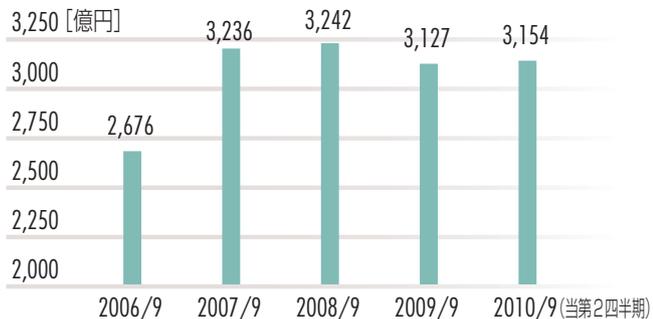
また、シンガポール消防局様などには、携帯放射線感知機、放射能汚染防護スーツ、対処用ヘルメットなどのホームランドセキュリティ(国家安全保障：テロ対策関連)といった、日本では提供していないサービスの提供もしています。

今年5月には、情報会社と銀行の共催で行われているSME500(中小企業500社のランキング)で、セコムシンガポールが「純利益成長部門」の上位に入賞するなど、当地においてセコムのサービスの浸透が進んでいます。

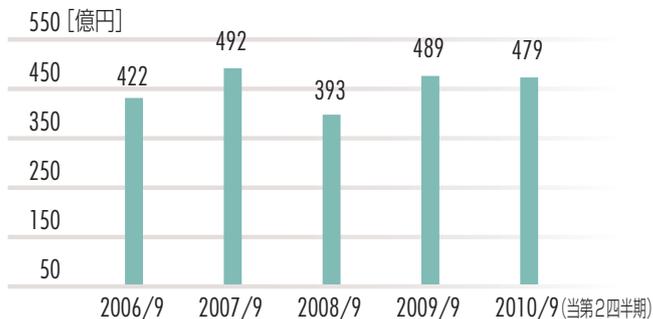
今後も、現地の状況やニーズに合わせたセキュリティを提供し、業績の拡大を図っていきます。

連結決算 業績ハイライト — 第2四半期累計

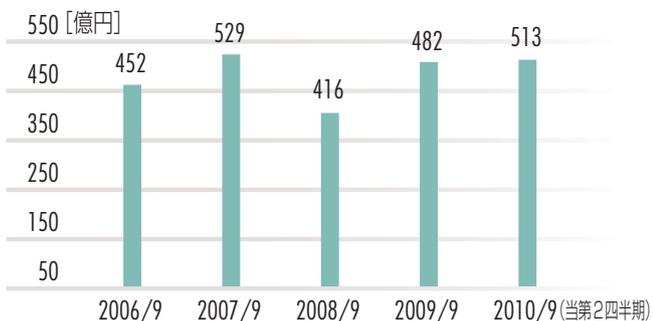
売上高



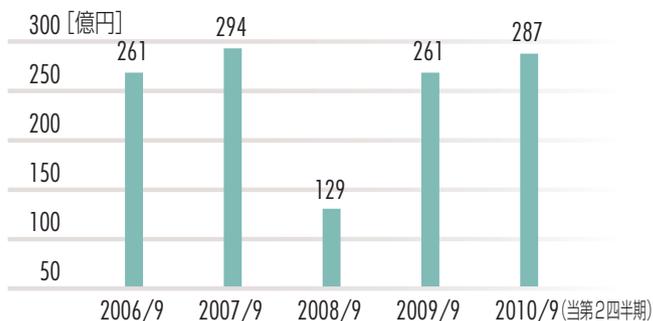
営業利益



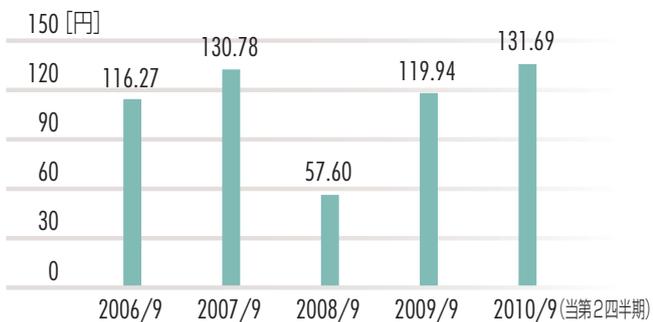
経常利益



四半期純利益

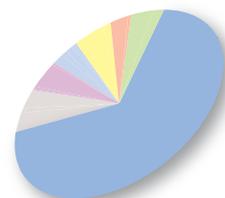


1株当たり四半期純利益



事業別売上高内訳 2010/9 (当第2四半期)

● セキュリティサービス事業	2,051 [億円]	65.0%
● 防災事業	307	9.7%
● メディカルサービス事業	197	6.3%
● 保険事業	164	5.2%
● 地理情報サービス事業	182	5.8%
● 不動産開発・販売事業	84	2.7%
● 情報通信・その他の事業	167	5.3%



連結貸借対照表(要旨) — 第2四半期末

2010年9月30日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	4,640
現金及び預金	1,626
現金護送業務用現金及び預金	472
受取手形及び売掛金	528
未収契約料	219
有価証券	76
リース債権及びリース投資資産	147
たな卸資産	267
販売用不動産	677
繰延税金資産	115
短期貸付金	23
その他	486
固定資産	5,886
有形固定資産	2,794
建物及び構築物	1,031
警報機器及び設備	643
土地	936
その他	182
無形固定資産	208
投資その他の資産	2,883
投資有価証券	1,736
長期貸付金	500
前払年金費用	185
繰延税金資産	210
その他	250
繰延資産	1
資産合計	10,528

負債の部

流動負債	1,885
支払手形及び買掛金	234
短期借入金	360
一年以内償還予定社債	15
未払金	193
未払法人税等	182
前受契約料	327
その他	570
固定負債	2,352
社債	163
長期借入金	167
預り保証金	370
退職給付引当金	130
保険契約準備金	1,370
その他	151
負債合計	4,238

純資産の部

株主資本	5,921
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	5,176
自己株式	△ 749
評価・換算差額等	△ 295
少数株主持分	664
純資産合計	6,290
負債純資産合計	10,528

連結損益計算書(要旨)―第2四半期累計

<単位：億円> *注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当第2四半期 (2010年4月1日から 累計(2010年9月30日まで))	前第2四半期 (2009年4月1日から 累計(2009年9月30日まで))	増減率
売上高	3,154	3,127	0.9%
売上原価	1,977	1,935	
売上総利益	1,177	1,192	△ 1.2%
販売費及び一般管理費	698	703	
営業利益	479	489	△ 2.1%
営業外収益	66	54	
営業外費用	32	60	
経常利益	513	482	6.3%
特別利益	12	8	
特別損失	32	12	
税金等調整前四半期純利益	492	479	2.9%
法人税、住民税及び事業税	181	201	
法人税等調整額	8	△ 4	
少数株主損益調整前四半期純利益	302	—	—
少数株主利益	15	20	
四半期純利益	287	261	9.8%

営業の概況(連結)

当第2四半期連結累計期間における売上高は3,154億円(前年同期比0.9%増加)となり、営業利益は479億円(前年同期比2.1%減少)となりました。経常利益は営業外収益の12億円増と営業外費用の28億円減により、513億円(前年同期比6.3%増加)、四半期純利益は287億円(前年同期比9.8%増加)となりました。

<参考>	●連結子会社数	165社
	●持分法適用関連会社数	27社
	●1株当たり四半期純利益	131円69銭

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 48,811名(2010年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、社会にとって安全・安心で、便利で快適なサービスシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指しています。

取締役 (2010年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役会長	木村昌平
取締役副会長	原口兼正
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
取締役	伊東孝之

監査役 (2010年11月30日現在)

監査役(常勤)	荻野輝雄
監査役(社外)	常松 健
監査役(社外)	安田 弘
監査役(社外)	山下耕平

* 監査役 常松健を独立役員として証券取引所に届け出ております。

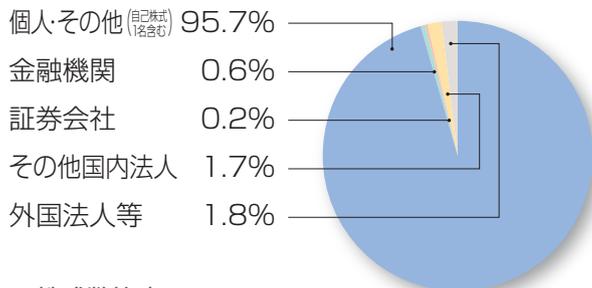
執行役員 (2010年11月30日現在)

代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務執行役員	秋山勝夫
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務執行役員	森 誠一
常務取締役	伊藤 博
常務執行役員	小河原俊二
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
取締役	伊東孝之
執行役員	小松良平
執行役員	鹿野輝夫
執行役員	角田幸生
執行役員	中村直英
執行役員	竹田正弘
執行役員	吉村輝壽
執行役員	新井啓太郎
執行役員	吉田保幸
執行役員	布施達朗

株式の状況(2010年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 単元株式数 100株
4. 株主数 30,821名
5. 所有者別状況

●株主数比率



●株式数比率



表紙写真のご説明

**セコム
画像センター**
(東京都世田谷区)

今年販売を開始した「インテリジェント非常通報システム」をはじめ、双方向画像監視システム「セコムIX」、ご家庭向けの「屋外画像監視サービス」など、ご契約先で異常が発生した場合に送られてくる監視カメラの画像を24時間365日監視、対応します。コントロールセンターとともにお客様の安全確保に努めています。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 上場証券取引所 東京、大阪
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告

<http://www.secom.co.jp/koukou/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

- 株主名簿管理人 特別口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関する各種手続きについて

証券会社に口座がある
株主様は…

▶ 口座がある証券会社へ
お問い合わせください。

特別口座に記録されている株式の
株主様は…

▶ 下記の特別口座管理機関
三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。

未払い配当金のお支払いは、すべての
株主様について…

▶ 下記の株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081
東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎ 0120-232-711 [平日 9:00~17:00]

手続用紙のご請求

☎ 0120-244-479 (音声自動応答)

<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>



環境に配慮したFSC®認証紙と
植物性インクを使用しています。